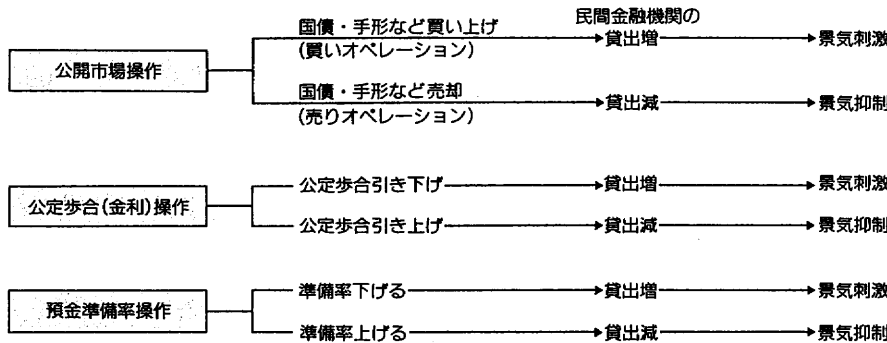


金融政策の波及経路（日本の場合）



をおこなう。

かつては、多くの中央銀行は、金ととりかえることのできる紙幣である兌換紙幣を発行していた。そのため、紙幣の発行量は、国の保有する金の量によって制約されることになる。このような制度を金本位制^⑤という。これに対して現代では、中央銀行の発行する紙幣は金との交換価値の裏づけのない不換紙幣であり、その結果紙幣の発行量は金の保有量ではなく、政府や中央銀行の自由裁量に任されている。このような制度を管理通貨制度^⑥という。

金融政策の諸手段

金融政策の手段としては、公開市場操作・公定歩合(金利)操作・預金準備率(支払い準備率)操作などがある。

公開市場操作とは、中央銀行が市中の金融機関から公債などの債券を購入したり(買いオペレーション、買いオペ)、売却したり(売りオペレーション、売りオペ)する行為である。買いオペをおこなえば、民間からの債券が中央銀行に吸い上げられるかわりに、中央銀行から通貨が出ていく。買いオペは通貨供給量を増大し、景気を刺激する手段となる^⑦。

公定歩合とは、中央銀行が民間の金融機関に資金を貸

⑤金本位制のもとでは、流通する紙幣と金の交換比率が固定されるので、紙幣の価値が金によって裏付けされ安定化する。各国が金本位制をとっていれば、各国の通貨のあいだの交換価値も固定し、為替レート(→P.162)も固定する。

⑥中央銀行は、紙幣(銀行券)の発行が認められている唯一の「発券銀行」である。

⑦具体的には、中央銀行のなかにある口座に資金が振り込まれる形をとるが、銀行はこれを現金の形で引き出すことができるし、現金の形で引き出さなくても資金の余裕ができるので、企業や家計への貸し出しを増加する要因をもつようになる。

⑧売りオペについては、買いオペとちょうど逆のことがおこる。

すときの金利のことである。公定歩合操作は、経済のさまざまな金利(銀行の貸し付け金利、預金金利など)に大きな影響をおよぼすものとして、中央銀行の重要な政策となっている^⑧。

銀行は、預金としてあずかった資金をすべて貸し付けにまわすことはできず、預金の一定割合を、中央銀行に強制的にあずけさせられる(支払い準備金)。これを法定預金準備^⑨という。法定預金準備率を低くすれば、それだけ貸し出し分が多くなり資金が出ていくので、景気を刺激する効果がある^⑩。これが預金準備率の調整である。

設問4 金融政策はどのようなときに、どんな目的で、どんな手段を用いておこなわれるか。

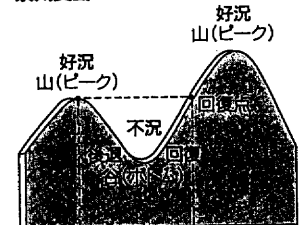
5.景気変動と経済政策

景気循環と乗数効果

経済は、変動をくりかえしながら成長している。景気の良いときには経済成長率も高くなるが、それがゆきすぎると物価が上昇する。景気が悪くなると経済成長率は下がり、失業が増加する。このように景気変動(景気循環)が大きくなるのは、消費や投資あるいは海外との貿易などに変動がおこると、それが経済のいろいろなところに拡大して波及し、景気の動きを増幅するからである。

たとえば、海外の景気が悪くなって、日本からの輸出が減少したら、どのような影響が経済におよぶであろうか。輸出の減少は、輸出に依存している企業の売上を低下させる。企業の業績の悪化により、その企業に勤めている従業員の所得が減少し、その企業に部品や原料をおさめている企業の売上を減らし、さらにはその企業の設備投資を低下させることで、建設企業や生産財企業の売

景気変動



⑨経済成長率とは、国内総生産(GDP)が年率何%で上昇しているかを示した指標である。

⑩経済成長率には、物価上昇率をふくんだ名目経済成長率と、それをのぞいた実質経済成長率がある。